

「水曜サロン with 赤堀会長」第5期 第15回(通算75回)

「GIGA 端末、使ってはいるけど…」を越えるために

## 1. 内容

- コロナ禍の頃に GIGA 端末の活用は 0 から 1 になった。しかし、今、1 を 5 に、10 にとできているだろうか。デジタルでなくてもよい学びを展開するために端末を使ってしまうてはいないか。
- デジタルは能力を拡張してくれる。
- 文部科学省がやっている活用推進事業は、届く範囲にはすでに届いている。届いていないところはどう届けるかが大切。そのためには「目的」を鮮明に。
- 目的は児童生徒の状況によって学校・学年でバラバラだが、いろいろなことができるのがデジタルなのでバラバラなのは正しい。  
→教育 ICT 利活用の目的 9 類型  
興味喚起   モチベーション喚起   理解促進   授業効率化   進捗確認・理解度確認  
教材拡充   表現手段拡充・思考手段拡充   情報共有手段の拡充   学習環境の拡充

## 2. 所感

多くの学校や教育委員会にアドバイザーや講師として関わっていらっしゃる為田さんならではの、実践や授業への関わりに裏打ちされたお話で、最大のキーワードは「目的」でした。コロナ禍の中、「学びを止めない」ために一気に広まった GIGA 端末の利用は一定の目的を果たしたものの、コロナ禍が収束した今、「端末を使うこと」が目的になってしまっている場合も見受けられるので、「端末を使って〇〇をする」という目的(上記「9 類型」参照)を明確にすることで、一歩先に進みましょう、という趣旨のお話でした。

印象的だったのは、デジタルは人間の能力を拡充してくれるという視点でした。ご自身については、手書きよりもデジタルのほうが文章を早くきれいにたくさん書ける、子供たちに関しても、自分一人ではなかなか書けなくても、他の子供たちが書いたものをデジタルで共有することで、こう書けばいいんだという気づきが得られ、よりよくするために書き直そうとする、という例を紹介されました。たしかにそういう場面を授業で見ることがありますが、「能力の拡充」の瞬間であるという視点は持っていませんでした。

一方で、質疑応答の中では、デジタルの学びにシフトして行けばよいというわけではない、とのお話もありました。たとえば「オリジナルの色を作ろう」という授業があったとして、デジタルを使えばたくさん色を作ってみてから選ぶことができ、絵具を使えば微妙な色が出せるが回数は試せない。学校ではデジタルの学びもアナログの学びも両方やって、子供たちがどちらがよいか、高校生・大学生になってから選べるようにしておくのが大切である。先生が教え方をどちらかに選択したら、子供たちは学び方を選択できなくなる、という視点も新たな気づきでした。

また、先生が自治体を超えて異動するとツールが変わって大変、という話題の中で、指導の目的が明確であれば操作性や画面の違いは乗り越えられる小さな差異である、車の会社が違えば乗り心地は違うのと同じようなものだ、という例でお話をされました。このように、全体を通じて、具体例と抽象化された哲学とが行き来する、非常にわかりやすいお話をいただきました。貴重なお話をありがとうございました。